

2024
大学概要

十文字学園女子大学

JUMONJI UNIVERSITY

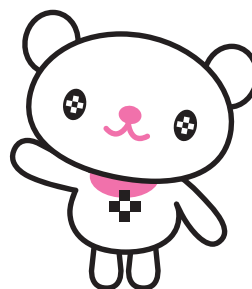
目 次

- | | |
|----------------------------------|----------------|
| 1 …… 目次
ロゴマーク・プラスちゃん
認定マーク | 11 …… 国際交流 |
| 2 …… 建学の精神、学園歌
歴代理事長、歴代学長 | 12 …… 研究推進、研究所 |
| 3 …… 沿革 | 13 …… 地域連携 |
| 4 …… 組織図 | 15 …… 学生数 |
| 5 …… 大学・大学院・留学生別科 | 16 …… 入学状況 |
| 6 …… 教育の特色 | 17 …… 教職員数 |
| 7 …… 学生を支えるセンター | 18 …… 役職者 |
| 8 …… 修学支援制度 | 19 …… 財務状況 |
| 9 …… 就職支援 | 20 …… 土地・建物 |
| | 21 …… 事務局 |
| | 22 …… 交通アクセス |



キャッチフレーズの「プラスワン」には、学生のみなさんをかけがえのないひとり(+1)として歓迎し、みなさんの毎日に+1を約束するという意味が込められています。

学生による学修活動や、教職員による研究教育活動の中で、「プラスワン」を意識してもらうことを目指しています。



本学マスコットキャラクター
プラスちゃん

本学の魅力や情報を伝えるマスコットキャラクターとして2014年10月10日に「プラスちゃん」が誕生しました。9学科をイメージした学科プラスちゃんがあり、オリジナルグッズも制作されています。プラスちゃんと学生と一緒に社会活動や本学のPRに取り組んでいます。



本学は、2021(令和3)年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、2022(令和4)年3月16日付で、同機構が定める大学評価基準に適合していると認定されました。認定期間は2021年4月1日から2028年3月31日までの7年間で。

建学の精神、学園歌

[十文字学園の心を映す学園歌]

身をきたへ 心きたへて
世の中に たちてかひある
人と生きなむ



創立者 十文字 こと

十文字学園は、創立者である十文字ことが「教育を受けたいと思う女性がひとりでも多く学べる私立学校をつくりたい」という強い願いのもと、東京女子高等師範学校時代の友人と共に、1922（大正11）年に東京巢鴨の地に設立されました。本学園の建学の精神は、学園歌「身をきたへ 心きたへて 世の中に たちてかひある 人と生きなむ」の中に込められています。「自分自身の生きがいを持ち、自分の力で世の中の役に立てる女性を育てたい」と願う創立者の精神は、この学園歌とともに現在も脈々と受け継がれています。今後も「自ら^{つと}彊めて息^やまず（自分を鍛えることをやめない）」の精神、生き方を守りつつ、社会の変化に柔軟に対応して、十文字にしかできない女子教育の実現を目指していきます。

歴代理事長

- 初代 十文字 こと
1951（昭和26）年3月－1955（昭和30）年5月
- 2代 十文字 良子
1955（昭和30）年6月－1987（昭和62）年5月
- 3代 十文字 一夫
1987（昭和62）年5月－2024（令和6）年4月
- 4代 十文字 佑子
2024（令和6）年4月－現在に至る



理事長 十文字 佑子

歴代学長

1966（昭和41）年4月 十文字学園女子短期大学 開学
（2002年より十文字学園女子大学短期大学部に改称）
（2018年 十文字学園女子大学短期大学部廃止）

- 初代 武田 一郎
1966（昭和41）年4月－1973（昭和48）年12月
- 2代 坂元 彦太郎
1974（昭和49）年3月－1991（平成3）年3月
- 3代 鈴木 一雄
1991（平成3）年4月－2002（平成14）年5月

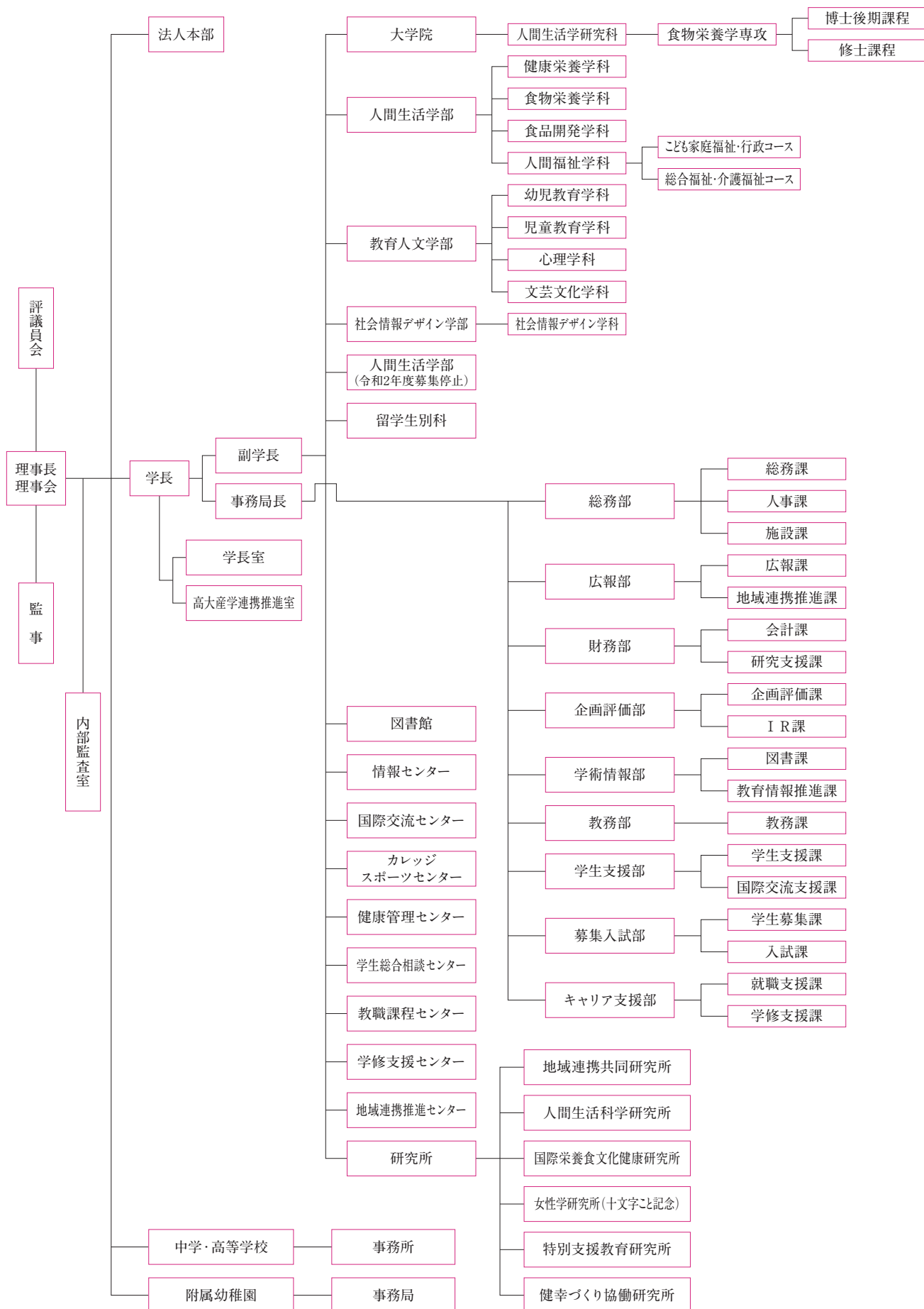
1996（平成8）年4月 十文字学園女子大学 開学

- 初代 鈴木 一雄
1996（平成8）年4月－2002（平成14）年5月
- 大学 学長代行
短期大学部 学長代行 十文字 一夫
2002（平成14）年7月－2003（平成15）年2月
- 大学 2代
短期大学部 4代 鶴木 眞
2003（平成15）年3月－2007（平成19）年3月
- 大学 3代
短期大学部 5代 宮丸 凱史
2007（平成19）年4月－2011（平成23）年3月
- 大学 4代
短期大学部 6代 横須賀 薫
2011（平成23）年4月－2017（平成29）年3月
- 大学 5代
短期大学部 7代 志村 二三夫
2017（平成29）年4月－現在に至る



学長 志村 二三夫

1922 (大正 11) 年	東京都豊島区巣鴨に文華高等女学校開校 (設立者:十文字こと、戸野みちゑ、斯波安)
1937 (昭和 12) 年	十文字高等女学校に校名改称
1951 (昭和 26) 年	学校法人十文字学園に組織変更
1966 (昭和 41) 年	埼玉県新座市に十文字学園女子短期大学開学 (家政科、幼児教育科)
1968 (昭和 43) 年	埼玉県新座市に十文字短大附属幼稚園開園
1973 (昭和 48) 年	学科 (初等教育学科、文学科国語国文専攻、文学科英語英文専攻) 開設
1974 (昭和 49) 年	家政学科を家政専攻と食物栄養専攻に分離
1976 (昭和 51) 年	専攻科 (国文、英文、家政、食物栄養、幼児教育、初等教育) 開設
1989 (平成 元) 年	学科 (教養学科) 開設
1991 (平成 3) 年	専攻科 (教養) 開設
1992 (平成 4) 年	家政学科家政専攻を家政学科生活学専攻に改称
1996 (平成 8) 年	十文字学園女子大学開学 (社会情報学部社会情報学科)
2000 (平成 12) 年	十文字学園女子大学社会情報学部 (コミュニケーション学科) 開設
	十文字学園女子大学留学生別科開設
2002 (平成 14) 年	十文字学園女子大学人間生活学部 (幼児教育学科、食物栄養学科) 開設
	十文字学園女子短期大学を十文字学園女子大学短期大学部に改称
2003 (平成 15) 年	十文字短大附属幼稚園を十文字女子大附属幼稚園に改称
2004 (平成 16) 年	人間生活学部 (人間福祉学科、人間発達心理学科) 開設
2007 (平成 19) 年	人間生活学部幼児教育学科を児童幼児教育学科に改称し、併せて2専攻 (幼児教育専攻、児童教育専攻) 開設
2010 (平成 22) 年	大学院 (人間生活学研究科 食物栄養学専攻 修士課程) 開設
2011 (平成 23) 年	新・人間生活学部 (幼児教育学科、児童教育学科、人間発達心理学科、食物栄養学科、人間福祉学科、生活情報学科、メディアコミュニケーション学科) 開設
2012 (平成 24) 年	短期大学部 (表現文化学科) 開設
2015 (平成 27) 年	人間生活学部 (健康栄養学科、文芸文化学科) 開設
	人間生活学部人間福祉学科に社会福祉・保育コース開設
2016 (平成 28) 年	大学院 (人間生活学研究科 食物栄養学専攻 博士後期課程) 開設
2018 (平成 30) 年	十文字学園女子大学短期大学部廃止
2020 (令和 2) 年	人間生活学部 (健康栄養学科、食物栄養学科、食品開発学科、人間福祉学科) 開設
	教育人文学部 (幼児教育学科、児童教育学科、心理学科、文芸文化学科) 開設
	社会情報デザイン学部 (社会情報デザイン学科) 開設
2022 (令和 4) 年	十文字学園創立100周年



人間生活学部

人間生活学部は、建学の精神に基づき、「食・栄養・運動・福祉」を教育研究の中核とし、人々の豊かな生活と健康の保持・増進に寄与するために必要な専門的知識と技能を備え、多様な人々の健康で幸福な【健幸】を支援できる人材を育成します。

学科	取得できる免許状・資格	
健康栄養学科	栄養士としての知識・技術をベースに「運動」や「食文化」の学びを深め、健康づくりのスペシャリストをめざします。	栄養士、中学校教諭一種免許状(保健体育)、高等学校教諭一種免許状(保健体育)、栄養教諭二種免許状、健康運動指導士(認定試験受験資格)、高齢者体力づくり支援士(認定試験受験資格)、フードコーディネーター3級、社会福祉主事(任用資格)、学校図書館司書教諭、図書館司書、学校司書、日本語教員
食物栄養学科	豊富な専門知識と技能を備え、食を通してヒトをみる専門家として人々の健康に貢献できる管理栄養士を育成します。科学的根拠に基づく識見、企画力、指導能力、実践力を養い、感性豊かな食・栄養・健康の専門家を育てます。	管理栄養士(国家試験受験資格)、栄養士、栄養教諭一種免許状、第一種衛生管理者、NR・サプリメントアドバイザー(認定試験受験資格)、社会福祉主事(任用資格)、図書館司書、学校司書、日本語教員
食品開発学科	めざせ開発女子～食のトータルプロデューサーになる～ 「安全・安心」「機能性」「おいしさ」に優れた食品を開発し提供する、高度な能力を備えた人材を育成します。	食品衛生管理者・食品衛生監視員(任用資格)、専門フードスペシャリスト(食品開発/食品流通・サービス)、フードスペシャリスト、フードサイエンティスト、フードコーディネーター3級、食の6次産業化プロデューサー、図書館司書、学校司書、日本語教員
人間福祉学科	こども家庭福祉・行政コース 包括的な相談支援・社会的養護・子育て支援を担う、行政福祉(公務員)を含めた社会福祉士・保育士を育てます。	社会福祉士(国家試験受験資格)、保育士、社会福祉主事(任用資格)、児童指導員(任用資格)、身体障害者福祉司(任用資格)、知的障害者福祉司(任用資格)、図書館司書、学校司書、日本語教員
	総合福祉・介護福祉コース 福祉における社会的要請・課題に総合的に応え、人に寄り添い生活を支え、包括的な相談支援を担うことができる社会福祉士・介護福祉士を育てます。	社会福祉士(国家試験受験資格)、介護福祉士(国家試験受験資格)、社会福祉主事(任用資格)、児童指導員(任用資格)、身体障害者福祉司(任用資格)、知的障害者福祉司(任用資格)、図書館司書、学校司書、日本語教員

教育人文学部

教育人文学部は、教育学・心理学・文学の学びを中核とし、価値や文化が多様化・多元化する中で、年齢や立場、文化的背景の異なりを超え、他者を受容し理解する姿勢を育み、創造と思考を重ねて生涯にわたって成長・発展を続ける人材を育成します。

学科	取得できる免許状・資格	
幼児教育学科	「子どもから学ぶ、子どもと共に育つ」という基本姿勢のもと、豊かな表現力、人間理解力と関係発展力、創造的保育実践力を発揮しながら、人間の成長発達を支え、未来を切り開く人材を育成します。	幼稚園教諭一種免許状、保育士、社会福祉主事(任用資格)、図書館司書、学校司書、日本語教員
児童教育学科	特別支援教育、英語教育、幼・小連携など、現在の多様な教育課題に対応できるよう、知識の幅を広げ、教員・教育者として活躍するスキルを身に付けた人材を育成します。	小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状(知・肢・病)、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)、学校図書館司書教諭、図書館司書、学校司書、日本語教員
心理学科	生涯にわたって発達する「心」について学び、「社会で活かせる心理学」を修得します。さらに、カウンセリングの基礎力をはぐくみ、心理学的支援を要する人々に対し、専門知識を持って適切な支援のできる人材を育成します。	養護教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(保健)、高等学校教諭一種免許状(保健)、認定心理士、ピアヘルパー、メンタルヘルスマネジメントⅢ種、准学校心理士、社会福祉主事(任用資格)、児童指導員(任用資格)、図書館司書、学校司書、公認心理師受験資格要件(4年制大学において省令で定める科目の対応)、日本語教員
文芸文化学科	ことばの力を磨き、文化・芸術を深く洞察して、人として知的に成熟するとともに、ゆるぎない自己を確立し、相手を慮る力を発揮して、多様な文化背景を持つ人々と共に生き抜くことのできる心豊かな人材を育成します。	中学校教諭一種免許状(国語)、高等学校教諭一種免許状(国語)、学校図書館司書教諭、学芸員、日本語教員、図書館司書、学校司書

社会情報デザイン学部

変化し複雑化する現代社会を紐解く知識と課題解決を目指す創造力、多様な他者と協働するコミュニケーション力をもって、よりよい社会を、文系、理系の枠を超えて育むことのできる人材を育成します。

学科	取得できる免許状・資格	
社会情報デザイン学科	データサイエンスや社会学、経営マーケティングなど現代社会を読み解く力、デジタル技術を駆使する力、そして他者と協働し、新しい価値をデザインする力をもって、これからの社会で活躍し続ける人材を育成します。	ITパスポート、図書館司書、学校司書、MOS、日本語教員

大学院 人間生活学研究科
食物栄養学専攻

国内外で活躍できる「食と栄養と健康」の専門家を育成します。

課程		
修士課程	「食と栄養と健康」に関する高度な学識、研究技術や科学的視点・根拠に基づく実践活動力および旺盛な自己教育力を基盤とし、「食と栄養と健康」の専門家として国内外における新たな活躍の場を自ら切り拓く意欲と能力を有する人材を養成します。	
博士後期課程	「食と栄養と健康」に関する高度な学識、および自立して研究活動を行うことが出来る高度な研究能力を基盤とし、「食と栄養と健康」の専門家として国内外問わず社会の発展に貢献できる人材を養成します。	

留学生別科

日本の大学へ留学を希望する海外の若者に対し、日本の大学の講義を理解できる日本語力の養成と日本文化を学ぶ機会を提供します。

質の高い日本語教育と豊富な体験型プログラムを提供しており、これまでに中国各地、韓国、ベトナム、ミャンマー、ネパール等、各国から学生が学びに訪れています。

共通科目

共通科目では、「ゼミナール」、「総合」、「人間」、「社会」、「保健体育」、「ICT・データサイエンス」、「外国語（基礎科目）」、「外国語目的別科目」、「日本語（非母語者向）」、「キャリア教育」の10の科目区分からなっており、未来をデザインするための教養科目が充実しています。

Pick up

本学のデータサイエンス教育プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されています。

令和5年度から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」として、全学選択科目「総合科目（はじめてのデータサイエンス）」を開講しています。デジタル社会で必要となるAI・データサイエンスの基礎的な知識やスキルを学び、活用する力を習得し、就職活動やキャリアに活かすことをねらいとしています。授業方法はe-Learning教材を使い、自分の好きな場所で、自分で時間を決めて進めていくフルオンデマンド型授業です。令和6年度入学生からは全学必修科目「はじめてのデータサイエンス」と名称を変更し、受講します。



認定の有効期限
令和10年3月31日まで

他学科開放科目

他学科開放科目は、共通科目にとどまらず、学修者である学生自身の関心・興味に応じて他学科の専門科目を学ぶことができる制度です。他学科の専門科目を履修した場合、卒業要件の自由選択科目としてカウントされます。幅広い知的好奇心に応えようとする制度です。

※一部履修科目については履修に制限があります。

遠隔授業導入

本学は「遠隔授業におけるガイドライン」に基づき、授業の一部に遠隔授業を取り入れています。遠隔授業は、リアルタイム形式（同時双方向の授業）、オンデマンド形式（録画教材を使用し学生の都合の良いタイミングで受講）およびハイフレックス形式があります。教材を繰り返し視聴することで理解を深め、海外在住の講師とオンラインで英会話レッスンを受講できます。遠隔授業と対面授業を組み合わせることで、教育の手法を広げ、深い学びを提供できると期待しています。データサイエンスや英会話、共通科目の一部の授業に遠隔授業を取り入れています。

企業連携活動

企業の課題解決に貢献。社会情報デザイン学科学生が考案したビジネスコンセプトから「タマキッチン」のキッチンカーが誕生しました。

マーケティング、金融といった実務経験のある教員が担当する「ビジネスマーケティング講座」は、マーケティングやブランディングの思考やアプローチについて学ぶ科目です。城北信用金庫の協力のもと、様々な企業と連携し、全15回の授業が行われました。

学生は企業から出された課題に対してグループで取り組み、解決方法を模索、さらに熟考した提案を企業へプレゼンテーションしました。講義最終回では企業や講師から講評をいただきました。

この課題解決のアイデアからビジネスコンセプトが出来上がり、キッチンカー「タマキッチン」（玉川食品株式会社）の誕生につながりました。ネーミングも学生からの提案がヒントとなっています。玉川食品株式会社 代表取締役 関根 康弘氏より、キッチンカーの設備や機能、販売展開についてご説明もいただき、今後の活動のヒントとなりました。



図書館

多領域にわたる学問分野の学修・教育・研究活動の支援を目的として、図書等資料を揃え、個人からグループまでの学修環境を提供しています。学生との協働による学生目線のサービスや活動も行い、社会に求められる知識や教養を提供し、学生の創造的・自立的学修活動をサポートしています。

開館時間

(平日) 8:50~20:00 (土曜) 8:50~17:00

利用状況

令和5年度

開室日数	入館者数	貸出		文献複写依頼数
		貸出人数	貸出冊数	
285 日	32,671 人	5,189 人	9,803 冊	400 件

蔵書数

令和6年3月31日現在

図書			雑誌			視聴覚資料
和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計	計
153,093 冊	20,157 冊	173,250 冊	501 種	206 種	707 種	4,403 点

受入数

令和6年3月31日現在

図書			雑誌			視聴覚資料
和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計	計
2,520 冊	49 冊	2,569 冊	133 種	19 種	152 種	49 点

情報センター

大学全体の情報システムを統括し、情報資源を管理・運用して、学修・教育・研究をサポートします。センターには、学内の無線LANに接続してネットワークを利用できる貸出用のノートパソコンのほか、デジタルカメラ、ビデオカメラ、プロジェクター等の様々なICT機器があり、貸出もおこなっています。個々・グループなど、利用者層に応じた学修環境を提供しています。

開室時間

(平日) 8:50~18:00 (土曜) 8:50~13:30

情報センター・コンピュータ演習室

センター名称 教室番号	情報センター	113	123	753	8204	8205	8206	9201	9202	9203	9206
座席数	125	90	90	40	42	50	54	60	48	48	48
PC台数	100	90	90	42	42	50	54	60	48	48	48

国際交流センター

大学の国際化を推進するため、海外協定校との学術交流や、学生の海外派遣、研修、受け入れ等を行っています。本学に留学をしている学生の生活支援、進路相談、文化交流をサポートするとともに、海外で外国語や文化に触れ、幅広い教養・知識・視野を身につけたいなど意欲的な学生の留学をサポートするため、海外の姉妹校・提携校で実施する語学や異文化理解研修の運営や、留学希望者に対する留学情報の収集・提供、留学相談などを行っています。

カレッジスポーツセンター

地域スポーツの振興を目的として、学生・教職員・地域住民のみなさまに対し、健康・運動・スポーツを、安全に楽しく行える環境や機会を提案していくセンターを目指しています。具体的には、学内スポーツの企画・運営・推進、強化指定クラブの育成・強化・発展等の大学スポーツへの支援、地域住民対象の健康イベント等を学生と協働して行うことで、多くのみなさまが健康・運動・スポーツに興味をもち、明るい将来へと歩みを進めることができるようなサポートを行っています。

健康管理センター

医師である健康管理センター長と保健師が、学生や教職員のケガや体調不良に対応しています。学内での救護要請にも応じています。学生への健康相談や生活リズムを整えるための健康教育も実施しています。医療機関への受診が必要な場合は、紹介状を発行して適切な医療につなげています。内科、婦人科、精神科の校医による健康相談は月に一回予約制で実施しています。こころの悩みは校内においてカウンセラーによる相談ができます。

学生総合相談センター	大学生活や大学での学びにおける、困難や問題に直面した学生が最初に訪れる相談窓口です。学生の大学生活全般の諸問題や、障がいにかかわる相談に応じ、安心して学び、生活することができるように相談員がサポートします。相談内容に応じてカウンセリングへつなげたり、キャンパスソーシャルワーカーが話を聞き、適切な相談窓口・支援機関への紹介も行います。刺激を減らし、気持ちを静めたい時は、学生サポートルームが利用できます。
教職課程センター	特色ある教員養成を目指して、教職課程を履修する学生の支援、教職員間の情報共有、関係機関との連絡・調整、教職課程自己点検評価を担当しています。包括協定を締結している近隣の6市とは、連絡協議会を通して学生の学校インターンシップや教育実習の円滑な実施、現職教員研修への大学教員の派遣を推進しています。学生に対し、各自治体の教員採用選考の前倒しや教員養成塾等に関する情報提供や個別相談なども実施しています。
学修支援センター	「大学での学びに備えた入学前学習」、「在学中の基礎学力補充教育」、「教員・公務員採用試験や就職に備えたSPI試験対策」等、入学前から就職まで、学生の学修を側面から支援しています。また、キャリア教育の正課授業を担当し、就職活動に関わる具体的な基礎学力向上のためにSPI対策の授業も行っています。学生は講座受講、個別指導等、自分に合った方法で利用ができます。学修面での不安や悩みなどの相談・質問にも対応しています。
ボランティアセンター (地域連携推進センター内)	学生がボランティア活動に参加しやすくなるように支援することを目的としています。学内とともに地域のさまざまな社会資源と連携して活動を促進し、学生が自主性や社会性を身につけ、地域社会に貢献できるようになることを心がけています。 多様なボランティア情報の収集と発信を行ない、気軽に学生や教職員、地域等からの相談に応じられる専門職を配置し、体験学習や研修機会も設け、ボランティア活動を促進する拠点です。

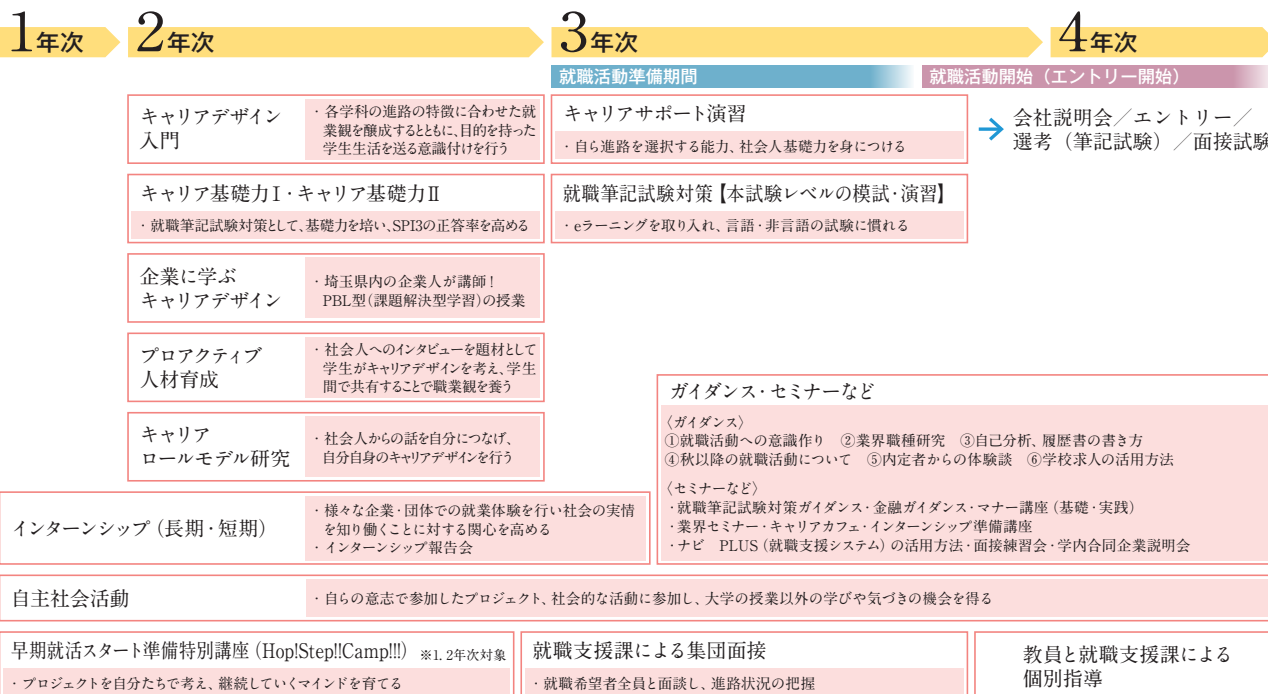
修学支援制度 | 経済的負担を軽減し、大学生活を安心して送るための各種奨学金制度等があります。 >

学内奨学金	
十文字奨学金	学業と人物が優れ、かつ、経済的な理由で修学が困難な学生に、奨学金の給付を行っています。基金は、教職員、関連団体及び外部からの寄付をその原資としています。／給付／1名につき20万円
授業料免除制度	
修学支援に係る授業料免除制度	修学に熱意があるにもかかわらず経済的理由により修学が困難な学生の、1年次後期以降各学期の授業料の全額または半額（教育充実費等を除く）を免除する制度です。ただし、家庭急変の理由がある場合に限り、1年次前期も対象とします。 ※外国人留学生は減免制度があるため対象外
私費外国人留学生授業料減免制度	正規の課程に在籍する私費外国人留学生について、学部学生は年間授業料の30%、大学院修士課程および大学院博士後期課程は40%の額を限度として減免する制度です。
特待生制度	
入学時学業特待生	特待生選抜入試において、学業成績優秀者に対し入学金免除、入学金及び1年次前期分の授業料の全額または半額を免除する制度です。
在学時学業特待生	在学時に学業において極めて優秀、かつ品行方正な学生に対し、当該年度後期授業料から10万円（入学時学業特待生が該当する場合は20万円）を免除する制度です。
十文字大元顕彰特待生制度	大学並びに宮城県遠田郡涌谷町が定める条件を満たした者の中から1名について、4年間の学納金全額（入学時に納める諸費用を除く）を免除する制度です。
十文字こと顕彰特待生制度	大学並びに京都府船井郡京丹波町が定める条件を満たした者の中から1名について、4年間の学納金全額（入学時に納める諸費用を除く）を免除する制度です。
学外奨学金	
日本学生支援機構奨学金 ほか	
同窓会関係者に関する優遇制度	
検定料割引制度	本学卒業生または在学生のご家族が受験する場合、検定料を減免する制度です。
入学金優遇制度	本学卒業生または在学生のご家族が入学する場合、入学される方の入学金を減免する制度です。

※制度を利用するには申請・審査等が必要です。

就職支援課では、年間を通して様々なプログラムを各学年向けに実施しています。さらに、在学生の保護者等を支援し、就職活動に対する不安を解消するため、「保護者・保証人向け就職セミナー」を毎年開催。また、卒業後も自立した社会人としての役割を全うできるよう、転職希望者には求人情報提供や相談窓口を通じた支援も行っています。

就職プログラム



就職状況（令和5年度）

大学就職率

令和6年5月1日現在

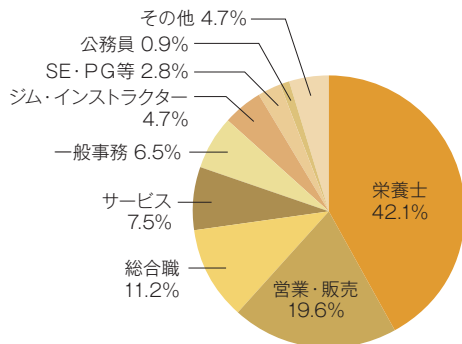
学部	学科	卒業者	就職希望者	就職率 (就職者/就職希望者)	
				就職者	%
人間生活学部	健康栄養学科	114	108	107	99.1
	食物栄養学科	113	109	108	99.1
	食品開発学科	26	24	24	100
	人間福祉学科	80	76	75	98.7
	計	333	317	314	99.1
教育人文学部	幼児教育学科	164	152	152	100
	児童教育学科	77	71	71	100
	心理学科	136	120	120	100
	文芸文化学科	87	74	71	95.9
	計	464	417	414	99.3
社会情報デザイン学部	社会情報デザイン学科	159	138	135	97.8
	計	159	138	135	97.8
合計		956	872	863	99.0

大学院就職率

研究科	専攻	卒業者	就職希望者	就職率 (就職者/就職希望者)	
				就職者	%
人間生活学研究科	食物栄養学専攻（修士課程）	1	0	0	—
	食物栄養学専攻（博士後期課程）	5	4	4	100
	計	6	4	4	100

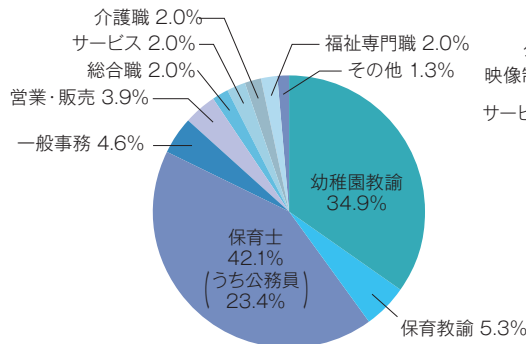
職種別就職データ

人間生活学部



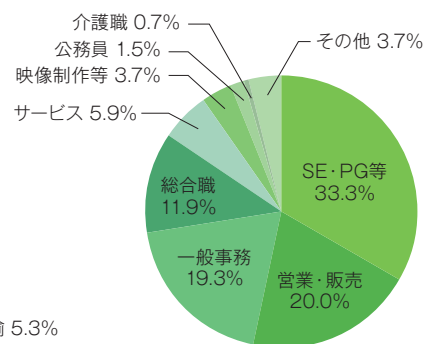
健康栄養学科

教育人文学部



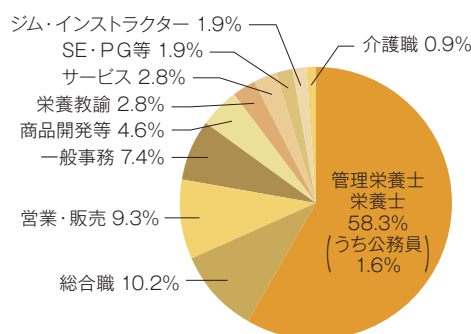
幼児教育学科

社会情報デザイン学部

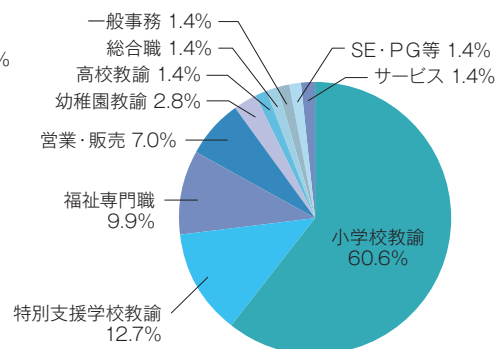


社会情報デザイン学科※2

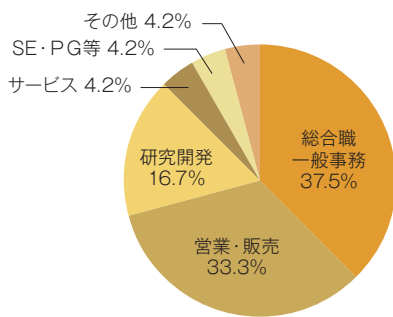
※2 生活情報学科・メディアコミュニケーション学科を含む



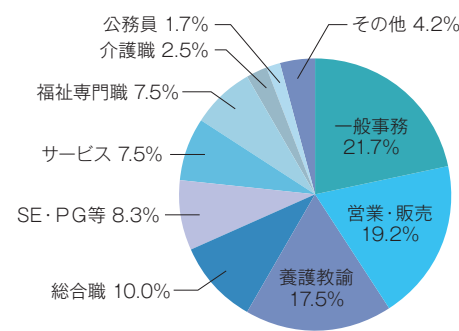
食物栄養学科



児童教育学科

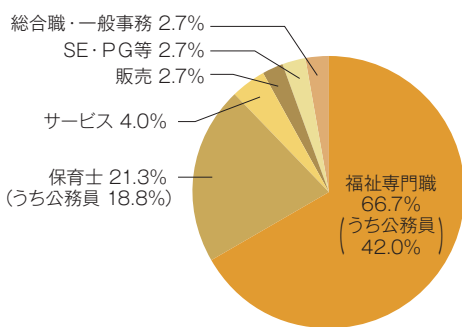


食品開発学科

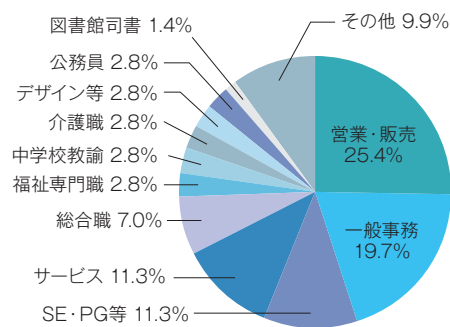


心理学※1

※1 人間発達心理学科を含む



人間福祉学科



文芸文化学科

[主な就職先]

製造業

グルメデリカ／ニチコン／YKベーキングカンパニー

電気・ガス等

サイサン

情報通信業

大和総研インフォメーションシステムズ／電通総研IT／三菱総研DCS

運輸業、郵便業

ヤマザキ物流

卸・小売業

赤ちゃん本舗／アシックスジャパン／加賀電子／日本アクセス

金融業

りそなグループ／埼玉縣信用金庫／オリエントコーポレーション

不動産、リース等

住友不動産販売／オリコオートリース

その他専門技術サービス

スタジオアリス

公・私立の幼稚園(認定こども園含む)、保育園、小学校

埼玉県、東京都の私立幼稚園、公立・私立保育園、小学校教諭

宿泊・飲食

日本ホテル／八芳園／リゾートトラスト／LEOC

生活関連サービス業、娯楽業

ルネサンス

医療・福祉

IMSグループ／埼玉医科大学／戸田中央メディカルケアグループ／日本赤十字社埼玉県支部／福祉事業所

複合サービス

埼玉県信用農業協同組合連合会

サービス業

鹿島建物総合管理／羽田旅客サービス／みずほビジネスサービス

公務員

法務省、埼玉県警察、福祉職(さいたま市、特別区)

海外研修プログラム

a. ノーザンライツカレッジ奨学金留学制度

ノーザンライツカレッジとの協定により、本学の学生1名または2名に対して、同校の授業料が免除となる制度。英語力と面接で選抜される。

b. 北京語言大学交換留学

北京語言大学との交換留学協定により、本学の学生2名に対して、北京語言大学の授業料が免除となる制度。学生は大学敷地内の学生寮にて生活を送る。

c. 海外協定大学派遣留学奨学金制度

本学と協定を結ぶ海外の大学へ派遣される学生1名に対して、本学が奨学金（90万円）を授与する制度。派遣先大学では主に語学集中コースに入学する。

d. 短期海外語学研修

長期休暇を利用し、アメリカ・カナダ・イギリス・中国の姉妹校および提携校で実施される特別語学研修プログラム（実施校は本学が指定）。さらに各種の課外活動を通じて、各国の生活習慣や文化を学ぶ。研修への参加は共通科目1単位として認定される。

e. ショートビジット・スタディーツアー

長期休暇を利用し、協定校とのプロジェクト企画・実施、フィールドワークを通じたPBL型の異文化体験から学ぶプログラム。グローバル化する社会において活躍する人材をめざし、異文化受容、多様な人々と協働する力を育成する。

国際交流締結機関

国名	機関名		交流内容	海外研修プログラム
アメリカ	ユタバレー大学	Utah Valley University (UVU)	学術交流・学生交流	c
	ハワイ大学マノア校	University of Hawai'i at Mānoa (UHM)	学生交流	c, d
カナダ	ノーザンライツカレッジ	Northern Lights College (NLC)	学術交流・交換留学・学生交流	a, c, d
	クイーンズ大学	Queen's University (QU)	学生交流	c, d
イギリス	スターリング大学	University of Stirling (Stirling)	学術交流・学生交流	c
	デ・モントフォート大学	De Montfort University (DMU)	学術交流・学生交流	c
	イースト・アングリア大学	University of East Anglia (UEA)	学生交流	c
中国	北京語言大学	Beijing Language and Culture University	学術交流・交換留学・学生交流	b, c, d
	中華女子学院	China Woman's University	学術交流・学生交流	—
	安徽外国語学院	Anhui International Studies University	学術交流・学生交流	—
タイ	イースタンアジア大学	Eastern Asia University	学術交流・学生交流	e
台湾	実践大学	Shih Chien University	学術交流・学生交流	e
	国立台北商業大学	National Taipei University of Business	学術交流・学生交流	e
	台北城市科技大学	Taipei City University of Science and Technology	学術交流・学生交流	e

外国人留学生数

外国人留学の受入れ推移

区分	R4	R5	R6
大学	22	11	12
大学院（修士課程）	1	4	6
大学院（博士後期課程）	6	4	2
留学生別科	6	4	9
科目等履修生・その他	0	1	2
合計	35	24	31

国・地域別外国人留学生数

令和6年5月1日現在

区分	国籍	大学	大学院	留学生別科	科目等履修生・その他
私費留学生	中国	12		8	2
	ネパール			1	
	ベトナム		8		
合計		12	8	9	2

本学では、学長のリーダーシップの下、建学の精神に則る研究活動活性化のための施策を計画的に推進することにより、新たな知を創造する学術・文化の拠点として、本学の使命と地域的役割を認識し広く社会に貢献するため、研究活動活性化のための基本方針を次のように定めました。

研究活動活性化のための基本方針

- 1) 本学の理念と使命の実現に向け、研究活動をより活性化するため、研究支援体制の整備や研究体制の充実に取り組んでいます。
- 2) 研究活性化のために必要な規程の整備、研究活動における不正行為防止のための研修や冊子の作成、プロジェクト研究費の審査・予算配分方法の見直しなどに取り組んでいます。
- 3) 地域の皆さまに貢献出来る研究にも一層尽力して参ります。

科研費採択状況

令和6年7月1日現在

単位(千円)

研究種目	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	件数※	交付金額	件数	交付金額	件数	交付金額	件数	交付金額
基盤研究(B)	0	0	1	1,170	1	780	1	5,200
基盤研究(C)(一般)	18	12,870	20	9,230	20	8,840	14	8,710
若手研究	11	11,180	11	7,670	10	4,550	5	1,950
研究成果公開促進費	0	0	0	0	1	1,200	0	0
合計	29	24,050	32	18,070	32	15,370	20	15,860

※継続・延長課題を含む。研究代表者が本学教員のもの。

外部資金受入状況

令和6年7月1日現在

単位(千円)

区分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	件数	受入額	件数	受入額	件数	受入額	件数	受入額
奨学寄附金	8(6)	54,341	2(1)	900	6(3)	8,362	2(1)	1,070
共同研究	2	0	5	2,600	5	2,600	7	5,980
受託研究	1	500	4	5,350	5	3,575	1	650
合計	11	54,841	11	8,850	10	14,537	9	5,200

※奨学寄附金の()内の数字に関しては公募型研究助成金獲得数(内数)

研究所

社会のニーズに多様な研究で応えます。

地域連携共同研究所

本研究所は、自治体、企業、NPO等の地域団体との連携を通して、地域の活性化および課題解決等につながる活動を支援し、地域共同社会の発展に寄与することを目的としています。また、活動を通して学生のための体験型、プロジェクト型の学びを実現し、学生の非認知能力の向上を目指しています。

[2024年度 地域連携プロジェクト一覧]

- 大学マスコットキャラクターの活用とその展開—学生にプラスの力を、地域にプラスのつながりを—
- ふるさとの緑と野火止用水を育むプロジェクト(HUGネット)
- 音楽による地域文化の活性化
- 遊びを通して子ども・地域の居場所支援—「しあわせ居場所ネットワーク」の活動と展開—
- 健康増進に向けたプラスごはんプロジェクトからの地域への情報発信・交信・共振
- 新座市における「ナッジ」を活用した食品ロス削減のための行動変容に関するプロジェクト
- フレイル予防のための地域在住高齢者への食支援(美味しく作りやすいメニューの提案)
- 地域との連携による多様な交流サロン「みんなのひろば☆きらり」の実践
- 朝霞市公立保育園×十文字学園女子大学 遊んで学ぶ・探求して遊ぶ「おさんぽプラス」
- 地域児童のヘルスリテラシー向上のための食育支援
- 新座産クラフトビール「十文字ビール」の開発とホップ粕残渣の有効活用法の検討
- 生活環境研究所(プロジェクト型研究所)

人間生活科学研究所

本研究所は、人間生活科学領域の中でも特に子どもに関する諸問題の学術研究及び実践的活動を通して、本学及び地域社会の発展に寄与することを目的としています。保育及び子育て・子育て支援の質を向上させるため、卒後教育・学生のOJTと関連させながら地域社会の発展につながる活動及び研究を展開しています。

[主な活動]

- 本学幼児教育学科卒業生で子育て中の保育経験者が行う地域子育て支援事業「プラスママの子育てサロン」を年間を通して開催し、学生スタッフ、教員も関わりながら質の高い子育て支援事業を展開
- 「対人専門職」の養成教育の在り方についての検討

国際栄養食文化健康研究所

本研究所は、栄養学を基盤とする食・健康関連分野の国際的な学術研究を通じ、本学および地域社会の発展に寄与することを目的としています。

- 食・栄養・健康部門 ● アジアの栄養・食文化部門

[食・栄養・健康部門の主な活動]

健康問題(肥満、糖尿病、循環器疾患、骨粗鬆症等の生活習慣病、食物アレルギー等)への食・運動の関わりを解明と各種食材、食品の機能の解明、および食の安心・安全確保に向けた取り組み

[アジアの栄養・食文化部門の研究]

- アジアの若手栄養士の創設と活動支援
- アジアの栄養士課程学生の招待
- ベトナムの学校給食改善に関する取り組み
- アジアの高齢者栄養に関する研究
- ベトナムのフグ食文化に関する研究

女性学研究所(十文字こと記念)

本研究所は、建学の精神に基づき、ジェンダーに関する学際的研究や講演等の啓発的活動を通して、本学・地域社会の発展に寄与することを目的としています。

[主な活動]

本学100周年記念事業(2022年度)では、『多様な個が輝く新時代へ』(植木朝子氏・同志社大学長)、『ジェンダーから考える一人ひとりが輝く社会』(澤西三貴子氏・国連民主主義基金次長/本学客員教授)と題した公開講座を開催。
*役職は開催当時

特別支援教育研究所

本研究所は、特別支援教育の研究や推進を図るために、連携市教育委員会や幼稚園・保育所・認定こども園・小中学校をはじめ、高等学校、特別支援学校への教育相談活動を通じ、地域社会の発展に寄与することを目的としています。また、学内の障がい学生への学修上や生活上の困難にかかわる相談や支援を実施し、大学全体での障がい学生への支援の充実に貢献しています。

[主な活動]

- 愛着障害と発達障害に関する研究
- 特別支援学校卒業生等を対象としたライフカレッジの実施
- 連携市等の幼稚園、小学校に在籍する発達障がいなどの子どもの相談・支援の実施

健幸づくり協働研究所

近年、身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活が送れる「健幸」の概念が注目されています。本研究所は、支援者や自治体組織、住民と協働で「健幸」を推進するための方策を考え実践していくことをねらいとしています。

[主な活動]

- 新座市の健康長寿に向けた取り組みとその評価に関する地域連携研究
- 学生サポートを活かしたロコモ予防のための「シニア健康教室プロジェクト」
- コロナ後の地域との連携によるオレンジカフェのあり方について

地域に根ざす大学として、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進め、地域の課題解決等へ向けて積極的に取り組んでいます。近隣自治体との連携協力協定の締結をはじめ、大学の有する知的資源や学生の力を地域社会の発展に活かすため、埼玉県や地元自治体、商工会、企業、団体、NPO等と連携し、産官民学による事業活動を展開しています。

地域連携事業の推進

本学は、2014年度に文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」の採択を受けて以来、本学と包括連携協定を締結している自治体（新座市、和光市、朝霞市、志木市、清瀬市）と連携して地域を志向した教育・研究・社会貢献の取り組みを継続して展開し、深化しています。

〈自治体との連携〉

持続的な地域連携を進めるため、以下の周辺自治体と包括連携協定を締結して、活動基盤を強固にしています。

- ・新座市 2007年12月21日締結
- ・和光市 2009年10月13日締結
- ・朝霞市 2013年 6月28日締結
- ・志木市 2013年 8月 1日締結
- ・清瀬市 2015年 4月 7日締結



〈ふるさと支援隊〉

高齢化や過疎化が進行する埼玉県内の中山間地域に活力をもたらす支援を行うための県の取り組みで、教員と学生が地域の課題解決に向けた活動を住民と協働して行っています。



〈地域との連携事業〉

子育て支援や健康長寿、食育、スポーツ振興、地域イベントの活性化、地域力の向上など、様々な分野で地域連携活動を展開しています。



緑地・歴史的文化資産の保全
地域の方たちの剪定作業



地産地消
地場野菜を使ったドレッシングの商品開発



健康づくり
新座市健康まつりへの参加



食育
食物栄養学科による児童への食育教室



スポーツ振興
西武ライオンズと連携した親子野球教室



地域イベントの活性化
「プラスちゃんくらぶ」によるイベントへの参加

〈産学連携〉

県内の企業と連携し、食品ロスや地元住民の健康増進などの課題解決を目的とした活動をおこなっています。



規格外のトマトを活用したトマトプロジェクト



開発したトマトのピザパン



サミットストアで学生考案の
レシピカードを配布

〈埼玉東上地域大学教育プラットフォーム (TJUP)〉

TJUPは、埼玉県内の東武東上線・西武線の沿線の20大学が、それぞれの特徴と強みを生かして自治体、企業と連携し、地域社会の発展に貢献するために設立された地域連携プラットフォームです。

3つの視点（多様な高等教育の提供、生活しやすい地域づくり、地域産業の活性化）により、4つの委員会（教育連携委員会、地域交流委員会、学生イベント交流委員会、キャリア支援委員会）を設置し、様々な連携活動を推進しています。

【会員校】跡見学園女子大学、埼玉女子短期大学、十文字学園女子大学、城西大学、城西短期大学、女子栄養大学、駿河台大学、西武文理大学、大東文化大学、東京家政大学、東京電機大学、東邦音楽大学、日本医療科学大学、日本工業大学、文京学院大学、武蔵丘短期大学、明海大学、山村学園短期大学、立正大学、埼玉県立大学（オブザーバー）



子ども向けイベントでブースを出展



大学・自治体・企業が参加したクリーン活動



他大学と共同の介護予防講座

「生涯学習の場」の提供

本学の知的資源や教育・研究成果等を地域社会に還元するため、公開講座やリカレント教育など「生涯学習の場」を提供しています。

〈公開講座〉

本学独自の公開講座のほか、新座市との共催（新座市内大学公開講座）やTJUPとの連携による講座も実施して、広く地域住民に開講しています。

2024年度公開講座・イベント一覧

※1 新座市内大学公開講座 ※2 TJUPとの連携講座

8月～11月	「実践食事学」のススメ ～疾病リスクを減らす考え方～（オンデマンド配信）（※1 ※2）
8月	子ども大学にいざ
9月	平安朝の恋文 ―書道と文学のコラボレーション―（※1 ※2）
11月	土井善晴のおいしいもののセミナー lesson5『心に残す食事 ～私たちと自然の間にあるもの～』（※1）
	どうなる？ 子どもの心とからだ ―最新の全国調査結果をふまえて―（※1）
12月	親子野球体験イベント（※2）
3月	子ども大学しき



料理研究家・土井善晴氏による講演
（2023年度開催）



NHK総合「ドキュメント72時間」にも出演した
西野博之氏による講座（2023年度開催）

〈子ども大学〉

子どもの学ぶ力や生きる力を育み、知的好奇心を高める場として、自治体や地域団体と連携して実施しています。



パソコンを使って天体について学習



竹を削って竹トンボづくり



志木市広報大使の「カバ丸」も参加

〈リカレント教育〉

埼玉県内在住の55歳以上の方を対象に、生活の充実や社会参加のきっかけづくりとなるように、県との協働事業として、授業科目の一部を開放しています。受講生は、学生と一緒に授業を受けています。

学生の現員

大学

令和6年5月1日現在

学部	学科	入学定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
人間生活学部	健康栄養学科	120	71	79	103	123	376
	食物栄養学科	120	82 (1)	95	131	135	443 (1)
	食品開発学科	40	27	25	38	41 (1)	131 (1)
	人間福祉学科	70	37	56	66	75	234
	計	—	217 (1)	255	338	374 (1)	1,184 (2)
教育人文学部	幼児教育学科	100	74	90	118	145 (1)	427 (1)
	児童教育学科	60	46	56	47	68	217
	心理学科	110	104	114	116	161	495
	文芸文化学科	70	40	55 (1)	70 (4)	91 (6)	256 (11)
	計	—	264	315 (1)	351 (4)	465 (7)	1,395 (12)
社会情報デザイン学部	社会情報デザイン学科	70	34 (1)	50	58 (2)	101	243 (3)
	計	—	34 (1)	50	58 (2)	101	243 (3)
人間生活学部 (令和2年度募集停止)	幼児教育学科	—	—	—	—	4	4
	児童教育学科	—	—	—	—	5	5
	人間発達心理学科	—	—	—	—	2	2
	人間福祉学科	—	—	—	—	—	—
	健康栄養学科	—	—	—	—	—	—
	食物栄養学科	—	—	—	—	—	—
	文芸文化学科	—	—	—	—	5	5
	生活情報学科	—	—	—	—	1	1
	メディアコミュニケーション学科	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	17	17 ※1
合計		760	515 (2)	620 (1)	747 (6)	957 (8)	2,839 (17)

※1 募集停止学科の過年度生のみ。在籍。

※ () は、外国人留学生数及び外国人学生数を内数で示す。

※ この他、科目等履修生、研究生の受け入れを行っている。

大学院

研究科	専攻	入学定員	1年次		2年次		3年次		合計		
			男	女	男	女	男	女	男	女	計
人間生活学研究科	食物栄養学専攻(修士課程)	5	0	7 (2)	0	6 (4)	—		0	13 (6)	13 (6)
	食物栄養学専攻(博士後期課程)	2	1	1	0	1 (1)	0	2 (1)	1	4 (2)	5 (2)
合計		—	1	8 (2)	0	7 (5)	0	2 (1)	1	17 (8)	18 (8)

※ () は、外国人留学生数を内数で示す。

別科

区分	入学定員	合計
留学生別科	80	9

卒業生総数

令和6年3月31日現在

卒業生総数(大学・大学院・短期大学含む)	40,163 名
修了生総数(留学生別科)	1,072 名

入学定員・志願者・受験者・合格者数（令和6年度）

大学

学部	学科・専攻	入学定員	志願者	受験者	合格者
人間生活学部	健康栄養学科	120	134	126	105
	食物栄養学科	120	237	217	147
	食品開発学科	40	68	65	47
	人間福祉学科(子ども家庭福祉・行政コース)	50	47	46	40
	人間福祉学科(総合福祉・介護福祉コース)	20	27	27	21
	計	350	513	481	360
教育人文学部	幼児教育学科	100	151	146	126
	児童教育学科	60	123	116	99
	心理学科	110	249	227	168
	文芸文化学科	70	112	102	85
	計	340	635	591	478
社会情報デザイン学部	社会情報デザイン学科	70	125	108	89
合計		760	1,273	1,180	927

※3年次編入生を含まず

大学院

研究科	専攻	入学定員	志願者	受験者	合格者
人間生活学研究科	食物栄養学専攻（修士課程）	5	6	6	6
	食物栄養学専攻（博士後期課程）	2	2	2	2

※秋入試含む

都道府県別志願者・合格者・入学者数（令和6年度）

※高校所在都道府県

都道府県	志願者	合格者	入学者	都道府県	志願者	合格者	入学者	都道府県	志願者	合格者	入学者
北海道	13	6	5	東京	293	214	99	岡山	2	1	0
岩手	5	4	3	神奈川	5	4	3	広島	2	2	0
宮城	11	10	8	新潟	11	7	5	愛媛	2	2	1
山形	4	2	0	山梨	4	3	3	福岡	1	1	0
福島	7	5	3	長野	19	11	5	宮崎	1	1	1
茨城	45	36	19	静岡	2	0	0	鹿児島	11	7	3
栃木	28	19	8	京都	1	1	1	沖縄	4	4	1
群馬	15	9	5	大阪	1	0	0	高卒認定他	6	3	1
埼玉	732	536	324	兵庫	1	1	1	合計	1,273	927	515
千葉	45	36	16	島根	2	2	0				

入学者における埼玉県所在高校出身者の割合 62.9%

※埼玉県内に所在する高校の卒業生

令和6年5月1日現在

区分		教員							兼任 教員	専任 職員
			教授	准教授	講師	助教	助手	小計		
学長	男	1						1		
	女									
副学長 ※1	男	3						3		
	女	1						1		
人間生活学部	健康栄養学科	男	2		2			4	14	
		女	3	5	1	1	3	13	22	
	食物栄養学科	男	4	1	1			6	10	
		女	3	3	4		5	15	15	
	食品開発学科	男	1	1				2	10	
		女	2	1	1			4	10	
	人間福祉学科	男	4	1				5	10	
		女	2	4	1			7	16	
教育人文学部	幼児教育学科	男	2	1				3	5	
		女	4	4	4			12	12	
	児童教育学科	男	10					10	20	
		女	2	2	1			5	13	
	心理学科	男	2	1				3	15	
		女	3	3	4			10	10	
	文芸文化学科	男	4	1				5	16	
		女	2	1	4	1		8	18	
社会情報デザイン学部	社会情報デザイン学科	男	9	2	1			12	17	
		女	2					2	4	
人間生活学研究科	食物栄養学専攻	男	1					1		
		女								
センター組織	男		2					2		
	女		2		1			3		
事務局	男									26
	女									41
合計	男	4	41	8	4	0	0	57	117	26
	女	1	25	23	21	2	8	80	120	41
	合計	5	66	31	25	2	8	137	237	67

※1 副学長は、学部教員の兼務者。

令和6年6月1日現在

学長	
	志 村 二三夫
学長補佐	
	綿 井 雅 康*
副学長	
副学長（企画担当）	綿 井 雅 康
副学長（研究担当）	星 野 敦 子
副学長（教育担当）	安 達 一 寿
副学長（募集入試担当）	今 井 伸
副学長（就職担当）	綿 井 雅 康*
副学長補佐（就職担当）	潮 谷 恵 美
副学長（特命担当）	佐々木 則 夫
大学院	
研究科長	志 村 二三夫*
研究科食物栄養学専攻主任	成 谷 宏 文
学部	
人間生活学部長	中 村 慎 子
教育人文学部長	富 山 哲 也
社会情報デザイン学部長	安 達 一 寿*
学科	
健康栄養学科長	木 村 靖 子
食物栄養学科長	竹 嶋 伸之輔
食品開発学科長	辻 典 子
人間福祉学科長	片居木 英 人
幼児教育学科長	名 達 英 詔
児童教育学科長	塚 田 昭 一
心理学科長	風 間 文 明
文芸文化学科長	石 川 敬 史
社会情報デザイン学科長	川 瀬 基 寛
留学生別科	
留学生別科長	松 永 修 一
図書館	
図書館長	石 川 敬 史*
センター組織	
情報センター長	北 原 俊 一
国際交流センター長	松 永 修 一*
カレッジスポーツセンター長	飯 田 路 佳
健康管理センター長	齋 藤 麗 子
学生総合相談センター長	中 西 郁
教職課程センター長	羽 田 邦 弘
学修支援センター長	辻 庸 光
地域連携推進センター長	星 野 敦 子*
地域連携推進副センター長（ボランティアセンター担当）	佐 藤 陽
地域連携推進副センター長	星 野 祐 子
学長室	
学長室室長	井 上 明*
学長室副室長	綿 井 雅 康*
高大産学連携推進室	
高大産学連携推進室長	和井田 慎 吾*

研究所	
研究所長	志 村 二三夫*
地域連携共同研究所長	星 野 敦 子*
健幸づくり協働研究所長	加 藤 則 子
特別支援教育研究所長	中 西 郁*
人間生活科学研究所長	向 井 美 穂
国際栄養食文化健康研究所長	山 本 茂
女性学研究所長（十文字こと記念）	池 田 まさみ
事務局役職者	
事務局長／法人本部長補佐	本 間 修
事務局長補佐（特命担当）／法人本部長特別補佐	安 達 満
総務部長	本 間 修*
総務部付部長	鈴 木 俊太郎
総務部付部長（人事担当）	佐 藤 吉 朗
総務課長	岩 附 友 美
人事課長	佐 藤 吉 朗*
施設課長	鈴 木 俊太郎*
施設課担当課長	増 田 敦 史
広報部長	和井田 慎 吾*
広報部次長	檜 本 圭 司*
広報課長	原 一 彰
地域連携推進課長	野 口 志都代
財務部長	高 野 明
会計課長	椎 名 忍
研究支援課長	高 野 明*
研究支援課担当課長	松 本 正 敏
企画評価部長／理事長補佐／法人参与	井 上 明
企画評価部次長	檜 本 圭 司
企画評価課長	瀬 川 美智子
IR課長	檜 本 圭 司*
学術情報部長	戸 塚 勝 美
図書課長	戸 塚 勝 美*
教育情報推進課長	戸 塚 勝 美*
教務部長	保 岡 義 明
教務課長	細 田 文 子
教務課長	稲 垣 友 子
学生支援部長	柳 澤 貞 夫
学生支援部長（学生総合相談センター担当）	笠 木 貴和子
学生支援課長	大 熊 やすこ
学生支援課担当課長	小 林 晶 識
国際交流支援課長	三 野 裕 子
募集入試部長	和井田 慎 吾
学生募集課長	和井田 慎 吾*
入試課長	大 町 勇
キャリア支援部長	松 苗 広 幸
キャリア支援部付部長	町 田 安 幸
キャリア支援部付部長	高 田 佳 織
キャリア支援部付部長（学修支援センター担当）	清 水 真佐子
就職支援課長	油 井 志 穂
学修支援課長	清 水 真佐子*

*兼務者

学校法人十文字学園の財政状況は令和5年度決算をもとに見ると、以下の通り資金収支合計は13,489百万円、事業活動収入の合計は6,582百万円、事業活動支出の合計は6,595百万円となりました。

令和5年度は大学において創立100周年記念事業としての施設整備事業として大学4号館431教室の改修を行いました。その他、411教室改修、図書館屋内空調機改修、8号館空調コントローラー更新等のほか、実験・実習用機器備品の購入整備を実施しました。

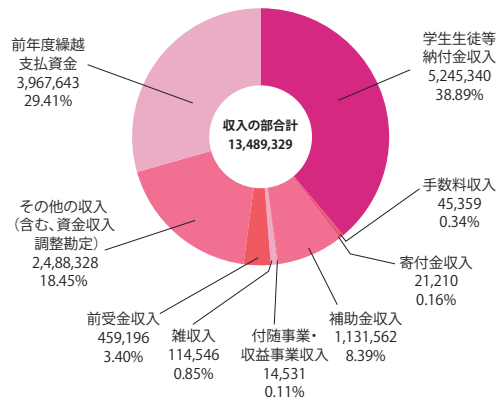
今後も健全な財務体質を維持しながら、本学に在籍する全ての学生のみなさまに、より一層充実したキャンパスライフを過ごすための環境整備を鋭意進めてまいります。

資金収支計算書

収入の部

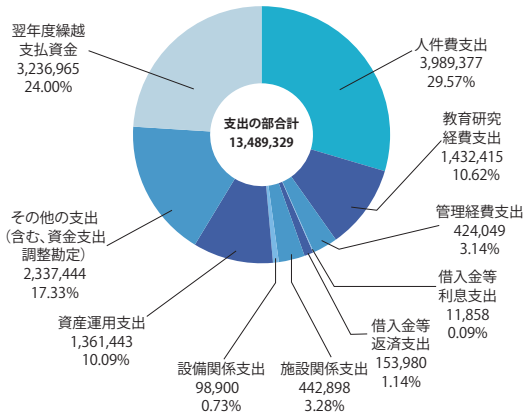
単位（金額）：千円

割合について、小数点以下第3位を四捨五入して0.01となる以下の科目は記載を省略
●受取利息・配当金収入1,364千円

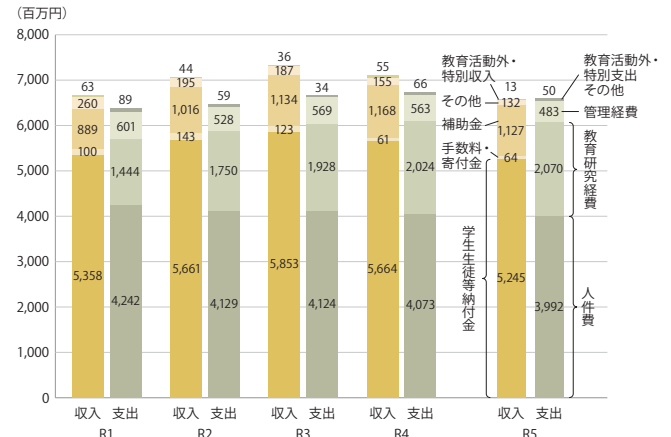


支出の部

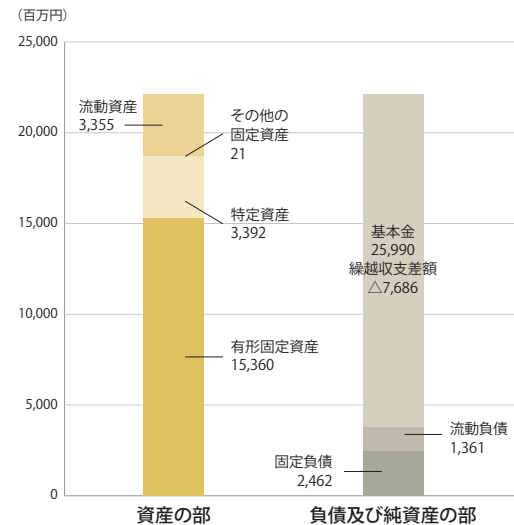
単位（金額）：千円



収入・支出の推移（事業活動収支）



貸借対照表



主要財務分析比率

比率名	算式	令和5年度
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入計}}$	-0.2%
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}^{*1}}$	60.8%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}^{*1}}$	31.5%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}^{*1}}$	7.4%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	0.2%

※1 経常収入=教育活動収入計+教育活動外収入計

勘定科目	内容
有形固定資産	土地、建物、構築物、機器備品、図書、車両など
流動資産	現預金、未収入金、短期貸付金、有価証券など
その他の固定資産	借地権、電話加入権、施設利用権、有価証券（長期）、長期貸付金など
特定資産	退職給与引当特定資産、施設設備引当特定資産、100周年記念事業引当特定資産など
固定負債	長期借入金、退職給与引当金など
流動負債	短期借入金、未払金、前受金、預り金など
基本金	学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして事業活動収入のうちから組み入れた金額

建物配置図



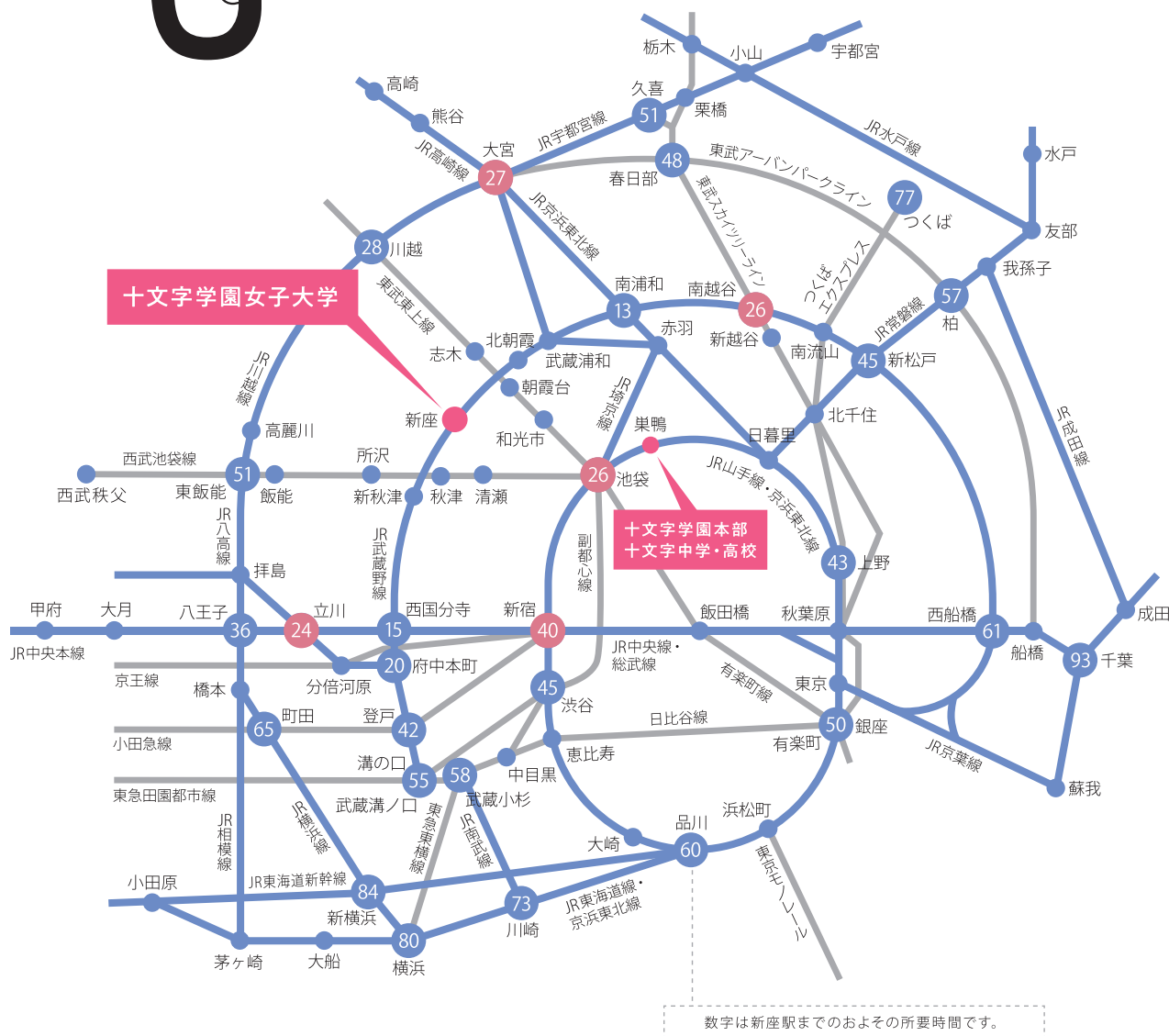
十文字学園女子大学
校地面積: 85,225 m²
校舎面積: 35,243 m²

十文字女子大附属幼稚園
校地面積: 3,708 m²
校舎面積: 1,417 m²

お問い合わせ一覧

部	課	所在	主な取扱事務内容	電話番号	FAX番号	メールアドレス
総務部	総務課		事務総括、秘書、教授会、運営会議、文書管理、規則制定、入学式・学位記授与式等諸行事、校友連携〔武蔵野会（保護者会）、若桐会（同窓会）〕	048-477-0555（代）		shomu@jumonji-u.ac.jp
	人事課	8号館1階	人事、給与、諸手当、退職金、就業規則、勤務時間、アルバイト雇用、福利厚生、社会保険、ハラスメント対策室	048-477-0555（代）	048-478-9367	jinji@jumonji-u.ac.jp
	施設課		施設活用計画、施設貸出、防災・防火、学内整備、工事・施設改修・施設保守等の管理	048-477-0555（代）		shisetsu@jumonji-u.ac.jp
広報部	広報課		広報業務全般、ホームページ・SNSの管理、運用	048-477-0555（代）	048-478-9367	kohoka@jumonji-u.ac.jp
		8号館1階	公開講座、社会貢献活動、地域との連携事業、産官学連携、大学間連携、高大連携に関すること	048-477-0958（直）	048-477-0764	ext@jumonji-u.ac.jp chiiki@jumonji-u.ac.jp
	地域連携推進課	1号棟(B)1階	ボランティアに関すること	048-477-0557（内833）	048-477-0764	v-center@jumonji-u.ac.jp
財務部	会計課		諸経費支払、旅費・立替金等支払、物品検収、授業料等収納	048-423-0271（直）		kaikei@jumonji-u.ac.jp
	研究支援課	8号館1階	研究支援、科研費、研究助成金、受託研究、共同研究費、研究所、プロジェクト研究費、特別研修員、紀要、学術図書出版助成費、研究費の発注・検収業務	048-477-0555(代)	048-478-9367	k-kenkyu@jumonji-u.ac.jp
企画評価部	企画評価課		大学の将来計画、教育改革、教育情報公開、大学評価			kikaku@jumonji-u.ac.jp
	IR課	8号館1階	IR企画立案、学生の学修時間・教育成果、その他の教育運営に関する調査・分析、大学の諸活動に関連する情報収集・分析、学長室に関すること	048-477-0569（直）	048-478-9367	ir@jumonji-u.ac.jp
学術情報部	図書課	図書館	図書館運営、図書の閲覧貸出返却、図書資料の購入、図書館システム管理・運用	048-477-0563（直）	048-479-6147	tosho@jumonji-u.ac.jp
	教育情報推進課	8号館1階 情報センター	教育研究・事務システムの企画・立案、調整およびネットワークの運用・管理のほか情報セキュリティ対策やユーザ教育	048-489-1281（直）	048-478-9367	jouhou@jumonji-u.ac.jp
教務部	教務課	7号館2階	履修関係全般、時間割、学籍、教室予約、試験、成績、証明書発行、資格・免許状（教免を除く）	048-477-0929（直）	048-489-1273	kyoumu@jumonji-u.ac.jp
			教職課程、教育職員免許取得、教育実習、介護等体験、現職教員研修、教職課程センター	048-477-0579（直）		kyosyoku@jumonji-u.ac.jp
学生支援部	学生支援課	7号館2階	学生生活全般、授業料免除、奨学金、課外活動、健康管理センター、学生総合相談センター、カレッジスポーツセンター	048-260-7735（直）	048-489-1273	gakusei@jumonji-u.ac.jp
	国際交流支援課	9号館1階	外国人留学生の修学、生活支援、留学生別科、国際交流センター、海外研修プログラム、国際交流協定	048-477-0603（直）	048-477-9123	fsc@jumonji-u.ac.jp
募集入試部	学生募集課		学生募集やオープンキャンパス、受験生に関すること	0120-8164-10 048-477-0924（直）	048-477-0389	boshuu@jumonji-u.ac.jp
	入試課	1号棟(A) 1階	入試事務、同窓生検定料割引、新入生学納金免除、合否判定委員会、特待生規程	048-423-0583（直）		nyushi@jumonji-u.ac.jp
キャリア支援部	就職支援課	7号館2階	就職指導、就職相談、求人先開拓、就職情報収集と提供、インターシップ、キャリア教育支援	048-489-1271（直）	048-489-1273	career@jumonji-u.ac.jp
	学修支援課	7号館4階	学修支援センター（学力補填のための支援、教員採用試験・公務員試験対策のための学修支援）	048-260-7732（直）	048-260-7732	ssc@jumonji-u.ac.jp
学生総合相談センター		1号棟(A) 2階	学生生活全般の相談、ハラスメント相談	048-260-7736（直）	048-260-7737	soudan@jumonji-u.ac.jp
健康管理センター		9号館1階	応急処置、健康診断、健康相談、感染症対策、カウンセリング、産業医業務	048-477-1292（直）	048-477-1292	me-room@jumonji-u.ac.jp

Access



- JR武蔵野線「新座駅」南口下車、徒歩8分
- 東急東横線・東京メトロ副都心線・有楽町線直通 東武東上線「朝霞台駅」下車、JR武蔵野線「北朝霞駅」より「新座駅」下車、徒歩8分
- 西武池袋線「秋津駅」下車、JR武蔵野線「新秋津駅」より「新座駅」下車、徒歩8分



十文字学園女子大学

十文字学園女子大学大学院 十文字女子大附属幼稚園

〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28

TEL : 048-477-0555 (代表) FAX : 048-478-9367

<https://www.jumonji-u.ac.jp>

十文字中学校・十文字高等学校

〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33

TEL : 03-3918-0511 (代表) FAX : 03-3576-8428

<https://js.jumonji-u.ac.jp>